



WEEKLY NEWS

超我の奉仕

和歌山東南ロータリークラブ第2640地区

2005～2006

例会日 水曜日 (第1・第2夜間)
夜間・PM・18:30

国際ロータリーRI会長カールヘルム・ステンハマー

国際ロータリー第2640地区ガバナー：平尾寧章

例会日 水曜日 (第1・第2夜間)
昼間・PM・12:30

和歌山東南ロータリー会長 山口幸也

副会長 郷間博敏

例会場 華月殿 和歌山市屋形町2-10
〒640-8227

幹事 和田達男

副幹事 郷間博敏

会計 楠本整二

副会計 駒阪純昭

事務局 和歌山市汀町26 経済センター7F
TEL073-423-3666
FAX073-423-7200

会場監督 駒阪純章

副会場監督 西田善昭

土屋一博

直前会長 中村美之

クラブ会報委員長 中村美之

副委員長 鯨 拓也

片畑宏造

委員 井畑順三

津川善昭

http://www3.cypress.ne.jp/tonnan-rotary.html
E-mail a-rotary@coral.cypress.ne.jp

週報
16号

通算第1699



本日の例会 11月2日(水)「華月殿」18:30

ロータリーソング 君が代、我等和歌山東南ロータリー
行事 外部卓話「バランス・スコアカード」とは
税理士・ITC・JQA認定セルフアセッサ 北畑 米嗣様

次回の例会 11月9日(水)「華月殿」18:30

行事 外部卓話「潜在脳の活性化③」プログラム委員会
吉本元紀先生

先週例会報告 来訪者紹介・ゲスト ポーズ感性工学リサーチ 川寄達也様、秋山嘉輝様 SAA駒阪純章

会長報告 山口会長



第16回会長報告 2005/10/26
1. 先日の地区大会にはたくさんの出席お疲れ様でした。RI会長代理の講演で、特に私にはロータリー活動には「感動が必要です、感動してください」と話されたことが私の頭の中にインプットされています。
2. 前回の例会終了後、35周年記念事業として社会福祉法人 一麦会(麦の里)方へ急速冷凍設備及び真空包装機の設備購入金として、150万円を寄贈してきました。出席(太田・奥村(博)・中村・八塚・竹中・和田・山口)された方はご苦労様でした、障害者の方々からは大変喜んでいただき感激しました。
3. 第2640地区第3組のI・Mが、和歌山北RC様がホストとして、12月2日(土) 場所は和歌山東急インで行われます、詳しくは後日幹事のほうから連絡させていただきます。
4. 今月は「職業奉仕月間及び米山月間」です、ロータリーの友10月号12ページ～16ページ、「私にとっての職業奉仕」の中で職業奉仕についての考え方や感動されたことなど、各クラブの方々が職業奉仕観を投稿されています。ぜひ一読していただきたくご紹介します。私としては職業奉仕についてわかりやすく理解出来るのではと思います。

幹事報告



郷間副幹事
幹事報告は本日は特にありません
11月23日例会は旭学園の生徒をみかん狩りに招待。予定地下見、郷間会員のみかん畑に決定。

例会日11月23日(水)

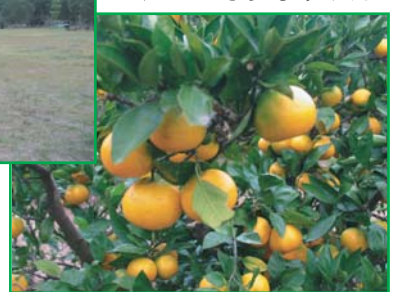
10:00～10:30
「四季の郷公園」



郷間会員のみかん畑
枝一杯に実をつけた
おいしそうなみかん



四季の郷公園
当日・ビンゴゲーム
12:30～14:00



ニコニコ箱

有本君・着物でシャンソン 無事終わりました。
ご結婚記念日御祝い・青木君、坂口君。

米山記年奨学金

松浦君・津川委員長、頑張ってください。
津川君・クラブ創立記念特別寄付をして頂きました。



	本日	累計
ニコニコ箱	13,000	765,686
ロータリー財団	0	143,200
米山奨学金	10,000	480,000
東南育英会	0	5,000
35周年委員会	0	174,000
合計	13,000	1,567,886

出席者報告 奥村智子委員長

～明るい例会楽しい雰囲気づくり～

◆ 会員総数37名 免除会員4名・名誉会員1名
10月26日(水) 22名 出席率 66.67%

◆ 10月12日 31名 メークアップ出席率 93.94%



【心の健康と感性】

ボーズ感性工学リサーチ(株)メンタルヘルスアドバイザー 川寄達也

私たちの脳は左脳と右脳に分かれています。右脳の働きは最近まで解明されていませんでした。左脳は言語脳で言葉・計算・理論を司ります。右脳は音楽脳と呼ばれ創造力・企画力・感性を司ります。知識や言語を扱う左脳だけが酷使されると、脳は本来の健康なバランスを失いせっかく持っている能力が発揮できません。五感に心地よい刺激を与えると右脳が活性化します。脳波の中の怒りやイライラのガンマー波を鎮め、話題のアルファ波を増やしてくれます。脳のバランスが取れてくると、誰もが持っている本来の体内リズムが整ってきます。そして心の自然治癒力が高まり、生きるエネルギーを取り戻すのです。

創業者ドクター・ボーズは、NASAの共同研究開発グループのトップで物理学の現役の教授です。音とのかかわりは、学生時代研究室で生演奏の本物の音を再生し研究成果を上げたいというのがスタートです。40年以上前に右脳の活性化を考えていたわけです。音に関しても研究集団を作り独特のボーズ理論を発展させ、世界のホール・業務用の70%のシェア占めています。『Better sound through research』。我が研究グループは現代のストレス社会に向けて、従来の再生技術では考えられなかった全く新しい『バーチャル・イメージング・アレイ・システム、VIA』の開発に成功しました。ホールのあの臨場感、立体感を普通の部屋で、簡単操作で再現するというものです。

(約20分VIA音で右脳・α波・βエンドルフィンを体感していただきます)

好きな音楽を生演奏の臨場感で楽しむためには、すごいシステムを組み、専用の部屋が必要でした。音は厄介なもので、日本の住宅事情では限られた人しか楽しむことが出来なかった世界です。その楽しみ方もスピーカーに囲まれて、リスニングポイントでしか良い音を聞くことが出来ませんでした。VIAはスピーカーの無いところから楽器の音が聞こえ、どこで聴いても自然なステレオ感が楽しめます。

21世紀は音と映像の時代といわれています。お部屋に居ながら、家族全員でコンサートホール、ライブハウス、映画館の臨場感・立体感が味わうことが出来る。

右脳は二十歳がピークです、いつまでも興味・好奇心を持ち続け感激・感動を味わえる感性を持ち続けたいものです。
以上

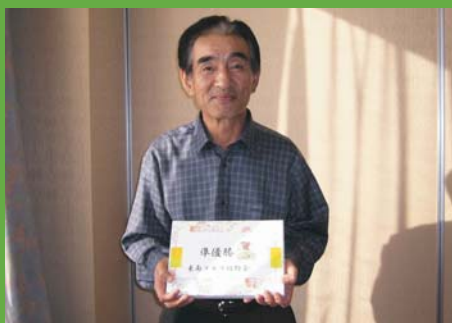
ゴルフ同好会

10月27日第2回東南ゴルフコンペが開催されました



優勝者

市川会員



準優勝者

坂口会員



沢山の賞を獲得した満面笑みの

喜びの吉田会員



COFFEE BREAK

知ってどーなる 知って得か！
お役に立つかわからんコーナー

● 計算記号が「+-x÷」に決まったのは？

「+-x÷」という計算記号は、どうやって誕生したのだろうか？まずは「-」から「-」—— 船乗りが、水の残量をあらわすための樽に印をつけた横棒がもと。舟に積み込んだ水の量は、毎日減っていくから 引き算の記号というわけ。「+」樽に水を足したときには、水の残量を示すための横棒に縦棒を書き入れて消した。だから、足し算は「+」になった。「x」1631年、イギリスのオーレットという数学者が、教会の十字架を見てひらめいたという。それまで、2x2は「2multiplied by 2」としか表記できなかつたため、彼はつくづく面倒だと思っていたようだ。「÷」—— 割算を分数の形であらわしたものの。「・」は分子、下の「・」は分母を表わしている。